

神楽名

あさかべ 浅ヶ部神楽

伝承地

浅ヶ部地区
高千穂町大字三田井 みたい

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

浅ヶ部神楽保存会
代表 甲斐 晃一郎



御 柴

◆ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の三田井系統に属する神楽である。祝子者は高千穂神社の氏子であり、高千穂神社、くしふる穂觸神社の春秋大祭や古神事「猪掛け祭り」など、高千穂神社関連の祭事における神楽奉納は三田井地区神楽保存会の中核として奉仕する。氏神祭の夜神楽は堂園、横手、やまご山川、梅木、猿伏の5組が輪番で行っており、民家を神楽宿とするのが慣わしである。いわした磐下権現神社で神事後、猿田彦を先頭とした行列「道行き」が全集落を巡り神楽宿へ舞入れる。その後夕方から翌日昼過ぎまで、夜神楽が全く省略されることなく奉納される。

氏神社の磐下権現神社は、正徳3年（1713）「神社改書上帳」には熊野三社権現とあり、江戸期からの例祭日旧暦11月11日を「土の日」として祭祀していたが、平成17年から12月の第3土曜日に実施している。磐下は鎮座地名である。天明2年（1782）・弘化4年（1847）の神楽文書に、浅ヶ部出身の願祝子として田崎助吉、樋口治吉郎の名がみえる。

◆ 芸能の機会・場所

- 浅ヶ部夜神楽…12月の第3土・日曜日、いわした磐下権現神社にて神事後、神楽宿にて奉納
- はつうま初午、彼岸の中日、稲荷祭、歳旦祭等で「式三番」を奉納

◆ 演目一覧

神事	宮神楽	道行き	舞込み	<small>みこうや</small> 御神屋ほめ	<small>ひこまい</small> 彦舞	<small>たいどの</small> 太殿
<small>かみおろし</small> 神凧	鎮守	<small>すぎのぼ</small> 杉登り	<small>じがため</small> 地固	<small>ひかんぜ</small> 弊神添	住吉	<small>たちかんぜ</small> 太刀神添
<small>やつばち</small> 八鉢	<small>おきえ</small> 沖逢	<small>ゆみしょうご</small> 弓正護	<small>ほんはな</small> 本花	<small>いわくぐり</small> 岩潜	<small>ごしんたい</small> 御神体	<small>そではな</small> 袖花
<small>しちきじん</small> 七貴神	五穀	<small>ぶち</small> 武智	<small>やまもり</small> 山森	<small>だいじん</small> 大神	<small>じわり</small> 地割	日の前
<small>しばひき</small> 柴引	伊勢神楽	<small>たちからお</small> 手力雄	<small>うずめ</small> 鈿女	<small>ととり</small> 戸取	<small>まいびらき</small> 舞開	<small>おんしば</small> 御柴
<small>しめぐち</small> 注連口	<small>くりおろし</small> 繰下	<small>くもおろ</small> 雲降し				

※平成26年度の神楽奉納番付に基づく

❖ 演目の特徴

「高千穂神楽」を著した小手川善次郎氏が、調査の対象とした神楽である。前半は祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続き、深夜には「目覚まし神楽」とも呼ばれる「御神体」「八鉢」などの面白い舞がある。岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」（「柴引」「伊勢」「手力雄」「鈿女」「戸取」「舞開」の六番）は高千穂神楽の代表的な演目であり、夜明けに奉納される。「御柴」は「柴上げ」とも呼ばれ、氏子の担ぐ柴に乗り勇壮に舞われる。最後に注連神楽として「注連口」「繰下」「雲下」で神々を送って終了する。

❖ その他の特徴

- 面... 磐下権現、鈿女、御神体、山森、猿田彦、八鉢、手力雄 等
- 楽... 太鼓、笛
- 装束... 白衣、白袴、素襖（麻）、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子、天冠 等
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖（荒神杖等）、弓、矢、刀、麻緒、折敷、帯 等

❖ 伝承の現状・課題

明かりが漏れない工夫をして戦時の灯火管制中も舞うなど、夜神楽を一度も休むことなく続けている。2度のヨーロッパ公演、平成26年のブラジルでの公演など海外との交流も盛んである。高齢化が進み地区民は減少の傾向にあるが、三田井地区の本組、後川内、上川登、下川登の保存会は夜神楽並びに日神楽で互いに協力研鑽し、伝承を守っている。



弓正護



御神体



戸取